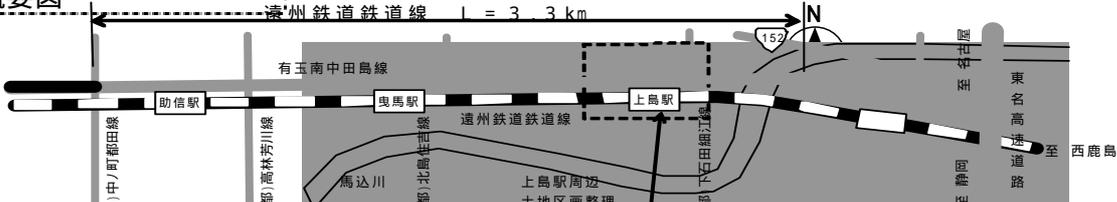


再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局 街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名	えんしゅうてつどうてつどうせん 遠州鉄道鉄道線 連続立体交差事業 すけのぶえき かみじまえき (助信駅～上島駅間)	事業区分	街路	事業主体	浜松市
起終点	はまつしなかくすけのぶちよう 自：静岡県浜松市中区助信町834番7地先 はまつしひがしくありたまみなまち 至：静岡県浜松市東区有玉南町1751番地先			延長	3.3km
事業概要					
道路と鉄道を連続して立体交差化することにより、複数の踏切を除却し都市内交通の円滑化を図る。また、鉄道で分断された市街地の一体化を図り、周辺市街地の発展を促進させる。 (除却される踏切 21箇所)					
H10年度事業化	H14年度都市計画決定 (H16年度変更)	用地買収なし	H16年度工事着手		
全体事業費	157億円	事業進捗率	33%(H18末)	供用済延長	0km
計画交通量	124,500 台・時/日 (除却される踏切 21箇所)				
費用対効果分析結果	B / C 1.5 (事業全体) 1.5 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 123 / 196億円 事業費：122/ 195億円 維持管理費：0.5/ 0.5億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 302 / 302億円 移動時間短縮便益：294 / 294億円 走行経費減少便益：1.3 / 1.3億円 交通事故減少便益：6.3 / 6.3億円	基準年 平成19年	
事業の効果等					
・都市内交通の円滑化（踏切が21箇所除却され、踏切事故・交通渋滞の縮減が図られる） ・良好な市街地の形成（鉄道による地域分断が解消され、市街地の発展が促進される）					
関係する地方公共団体等の意見					
10年度から18年度まで事業主体であった静岡県からも、円滑な事業推進が期待されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
周辺地区には、大型商業施設がオープンし、本事業区間の現況道路踏切部においても交通混雑が拡大していることから、早期に鉄道を高架化して、交通混雑を緩和する必要性が増している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
進捗率（平成18年度末）：33%（事業費ベース） （平成10～18年度：静岡県施行 平成19年度～：浜松市施行）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
18年度までの進捗率は33%となっており、19年度には関連する区画整理区域内の工事にも着手していることから、今後も円滑な事業進捗が見込まれる。					
施設の構造や工法の変更等					
橋梁架設工事において、架設クレーンを工事間流用し、分解組立費の縮減を図っている。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	踏切除却による踏切渋滞および踏切事故解消や、良好な市街地の発展と円滑な交通の確保のため、鉄道の高架化は必要であることから、事業を継続する。				
事業概要図					
					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を、割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。